

授業科目名 <英訳>		認知デザイン特論 Advanced Studies: Cognition and Design Studies				担当者所属・職名・氏名		教育学研究科 教授 齊藤 智 教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 准教授 野村 理朗 教育学研究科 特定講師 野崎 優樹			
配当学年	院	単位数	2	開講年度・開講期	2017・前期	曜時限	木1	授業形態	特論	使用言語	日本語
共用科目											
【授業の概要・目的】											
<p>デザインという人間の営みを、脳・心・行動の3つの水準で捉える認知心理学の理論から、総合的に考察することがこの授業の目的である。まず、脳・心・行動そのものがそれぞれどのようにデザインされているのかを知ることが重要である。次に、脳・心・行動のもつ制約と、その制約を逆手に取った豊かな認知的活動との関連を考察する。さらに、豊かなデザインを生み出す能力を高めるために、脳・心・行動を発達させ、活性化させるためのさまざまな環境要因について考察する。最後に、行動のどのようなはたらきがどのような豊かなデザインを生み出しているのかについての関連性を、エラー防止、文芸、教育などの事例を取り上げて考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知心理学の理論を基盤として、脳・心・行動そのものが、どうデザインされているのかを知り、それらと認知活動との関連、および豊かなデザインを生み出す能力を高めるための環境要因について考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ブレイン・サイエンス：脳のデザイン 2. 社会情緒的能力のデザイン 3. 行動の制約 4. 視覚情報のデザイン 5. 記憶の制約 6. 思考と意思決定の制約 7. 動機づけのデザイン 8. 遺伝子の機能：行動のデザイン 9. エラーのデザイン 10. 感情制御のデザイン 11. 生育環境のデザイン 12. 言語芸術のデザイン 13. メディア・学習環境のデザイン 14. まとめ/評価 15. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 認知デザイン特論(2)へ続く -----											

認知デザイン特論(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業の参加，試験などに基づく総合評価
評価基準は、到達目標について、教育学研究科の評価基準に従って評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗（編）『教育認知心理学の展望』（ナカニシヤ出版）（その他は授業中に紹介する）

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に紹介された参考図書・論文、配布資料等を用いて、復習する。

(その他（オフィスアワー等）)

授業責任者連絡先 E-mailアドレス saito.satoru.2z@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。